

北海道医師会ト

ワクチン接種確保までコロナ

トップ4が指摘する種々から感染症病床の対策の問題点

長瀬

清会長



深澤

雅則副会長



藤原

秀俊副会長



佐古和廣副会長



新型コロナウイルスのクラスターで悲鳴を上げる医療現場が依然としてある中で、感染から1年以上が経ち、新たな課題が浮き彫りになっている。

北海道医師会の長瀬清会長と副会長の深澤雅則、藤原秀俊、佐古和廣の3氏がワクチン接種から変異ウイルス、感染症病床の確保までコロナ対策の問題点を指摘する。(3月22日現在)

一部の接種でぐまかす

— 新型コロナのワクチン接種で副反応の心配はないのですか。またワクチンの供給は足りていますか。

深澤 政府はメディアの取材でワクチンが十分確保されている、と言っていますが、私たち医療機関や北海道医師会が求めている情報の提供はありません。政府はワクチンの必要量を確保できておらず、

ワクチン接種の時期が予定より大幅にずれ込みますよ。

佐古 道内の医療機関の中で、コロナ患者の受け入れ病床を持つている病院は3月中旬から先行してワクチンの接種が始まっていますが、私もワクチンを打ちました。でもほかの医療機関については、ワクチン接種の具体的なスケジュールは示されて

いないですね。

長瀬 そうです。

佐古 日本の国立病院で医療従事者に対して先行接種した際、アナフィラキシーのような副反応が結構、出ています。割合としては5000人に1人程度。欧米の治験では20万人に1人の割合だと言われているのに、米国の医療従事者でも副反応の割合は日本の医療従事者と同じ程度です。医療従事者は医薬品の表面活性剤などに使わ

れている成分の感作を受けているので国内外を問わず副反応が多いとみられています。表面活性剤は化粧品でも使われ、副反応が女性に多いのもそのためと言われています。ただ重篤な例はないですね。藤原 アナフィラキシーとアナフィラキシーショックは区別して考えなければなりません。アナフィラキシーショックは血圧が急に下がったり意識がなくなったりする場合で、アナ

フィラキシーはそこまではないかないけれど蕁麻疹などの症状が出る場合なんです。あと、ワクチン接種のスケジュールが発表されていますが、あれは政治的なアナウンスにしか過ぎません。実際には予定の時期にワクチン接種を行うのは無理です。— 政治的なアナウンス?

藤原 ええ。ごく一部の人を対象にした接種で「接種を行った」という安心感を国民に与

えるやり方です。高齢者対象の接種が4月12日から行われますが、ほんの一部ですよ。実際に接種を行う私たち医療機関で、その準備が行われていません。佐古 医療従事者全員のワクチン接種が済んでいないのに、高齢者にワクチン接種を開始するというのは当初の予定からの変更です。藤原 うちの病院で高齢者の患者から「4月12日にはワクチン接種が受けられますよね」



続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)